

序

生命保険協会は平成30（2018）年12月7日をもって創立110周年を迎えます。これを記念して平成20（2008）年以降の10年間の生命保険事業等に関連する動向を纏めた「生命保険協会110年小史」を刊行いたしました。

10年前を振り返ると、リーマン・ショックともいわれる世界規模の金融危機が発生し、日本経済も大幅な景気後退へと向かっていました。こうした危機を経て、会員各社において、お客さまに将来にわたって安心を提供し続けるための事業基盤の強化に向けた取組みが進められてきました。

また、この10年の間に、東日本大震災に代表される多くの自然災害が発生しました。生命保険業界として、各地域にて災害に遭われた方と常に寄り添い、困難をともに乗り越えていくなかで、みずからの役割を改めて強く感じさせられました。

このような激動の時代のなかで、わが国は少子高齢化や人口減少が引き続き進行し、持続可能な社会保障制度の構築や労働力の確保、さらには健康寿命の延伸などのさまざまな社会課題を抱え、まさに課題先進国といわれる状況にあります。こうしたなかで、我々生命保険業界は、社会保障制度の一翼を担い、国民の生活を支える基盤として、私的年金制度の提言や保険教育の推進を通じ、自助のさらなる役割発揮に向けて取り組んでまいりました。加えて、女性活躍推進、さらには健康増進サポート活動といった少子高齢化や人口減少に伴う社会課題の解決に向けた取組みも進めてきております。

生命保険協会として110周年を迎える今年にはリーマン・ショックから10年、そして金融庁の前身となる金融監督庁発足から20年が経過するなど、世界経済、金融行政にとっても大きな節目を迎える年でもあります。今後も、長寿化の進行やテクノロジーの飛躍的な進歩などを通じ、国民一人ひとりの生活環境や生き方そのものが大きく変化していくことが想定されます。生命保険業界は、こうした節目を契機に、次の10年そしてその先の未来を見すえ、これからも事業の発展を通じて国民生活の向上に寄与すべく取り組んでいく所存です。

本書が大きく変化する時代の生命保険業界の歩みとして、この10年を振り返り、そして新たな未来を歩んでいく時の参考となれば幸いに存じます。

平成30（2018）年12月

一般社団法人 生命保険協会
会長 稲垣 精二